

—初級から楽しく描こう—
第12期 楽しい水彩・パステル

【9月の活動報告】

9月9日(月) 水彩風景(1) 風景のポイント(透視図法) A~B

◎夏休みの間に描いた作品を各自発表

◎基本・遠近法

- ・遠近法は平らな紙の上に画く方法の一つで、立体的に存在しているように見える一つで、立体的に存在しているように見える一種のトリックであり3次元の錯覚を作り出すマジックである。
- ・目線より高い場合は「へ」の字、下に行くほど平らになって、「へ」の字から「V」の字になる
- ・アイレベル(目線)は、水平線・地平線で目の高さにある。



◎一点透視：正面に捉えると動きがなくなるので、側面を入れたほうが良い。

◎二点透視：消失点を等距離にすると対角線上の上半分抜けてしまい絵が単調となり面白みがなくなる。

◎三点透視：高さを決める消失点ははるか上方になるので無視する。

上になるほど細くなるので、逆に頭になるものを少し入れておくと良い。

◎午後 実技指導

9月16日(月) 校外学習

アサヒビール 大山崎山荘美術館

アンドリュー・ワイエス展を観覧

「オルソン・ハウス」を舞台に《クリステイナの世界》をはじめとする数々の名作が描かれている。その《クリステイナの世界》習作を含む貴重な水彩・素描コレクション 約60点が展示されていた。



9月30日(月) 水彩風景(2) 空気遠近法、絵の奥行き

◎講義 空気の層の影響で遠近感を表現する空気遠近法

- ・近景：色、形、明暗をはっきりと
- ・中景：色、形、明暗をやや弱める
- ・遠景：色、形、明暗をぼんやりと

◎日本画家20作品(水彩画)の解説(スライドによる)

- ・構図、色調、タッチなど有名作品を例に説明を受けた。
- ・絵のサイズは写真(スライド)で見た目よりは小さい。3号、4号が多い。
- ・あるがままでなく、絵になるようアレンジしている



◎午後 実技指導